



子どもたちの力強い太鼓の音と声が響いた、丹波篠山真南風・なんくるないさあ with 和田中学校によるエイサー。(11月14日、味間小体育館にて)

「篠山少年少女合唱団」の合唱は、残念ながら中止となった。しかし、篠山立丹波中学校・味間小学校を会場に、分科会や展示・体験コーナー、ステージ発表などがあつた。おこなわれ、子どもも保護者の方々の

子ども一人ひとりが輝くようになる兵庫の教育の創造をめざして、ふれあい、語りあうことにより、学校と地域のつながりを深める



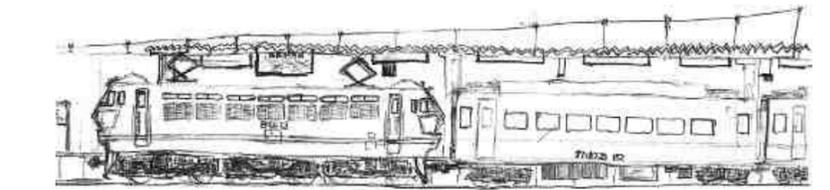
主催者あいさつ
山名幸一 執行委員長

私たちは大人には、子どもたち一人ひとりの人間成長を豊かに育み、子どもたちが将来に夢と希望を持てるような社会をつくる責任がある。そのためには、子どもたちにとっての「学びの場」であり「育ちの場」である、家庭や地域社会と学校教育が連携を築きながら成長を見守っていくことが一番大切だ。

しかし、若い世代の親たちは子育ての悩みを相談する場所や機会もなく疲れ果てていたり、学校の教職員にも子どもや保護者との対応が多忙化の中で、心身を消耗させてしまったりする事例が増えていると言われている。これらは、子どもたちや大人たちがお互いに孤立化・孤独化している反映であり、人と人の連帯や関係が希薄になっている現状を表しているのではない。

「教育は未来への先行投資」とよく言われる。今回の教育研究集会が、子どもたちの教育の権利、そして子どもたちの最善の利益を目指して、語り合い、学び合い、交流を深められれば、主催者としてこれほどうれしいことはない。子ども一人ひとりが輝く、さらなる兵庫の教育の創造をめざしていこう。

この県教研は、私たちの自主的・創造的な教育研究活動として59年の歴史を刻んできた。その成果は兵庫県の教育の充実・発展に大きな貢献を果たしてきたと確信している。



選出された第59次日教組全国教研 リポーター一覧

| No. | 分科会名 | 名前 | 支部 |
|-----|--------------------|-------------|----|
| 1 | 日本語教育 (A 作文・話しことば) | 江口敬子 | 芦屋 |
| 2 | 外国語教育 | 南志乃婦 | 津名 |
| 4 | 数学教育 | 牛島敏雄 | 三美 |
| 5 | 理科教育 | 足立浩基 | 氷上 |
| 6 | 美術教育 | 平出正次 | 氷上 |
| 7 | 音楽教育 | 川口 恵 | 氷上 |
| 8 | 家庭科教育 | 谷口美穂 | 揖龍 |
| 9A | 保健・体育 (保健) | 織田明美 | 津名 |
| 9B | 保健・体育 (体育) | 青木敬也 | 加小 |
| 10 | 技術・職業教育 | 大森 敏 | 加小 |
| 11A | 自治的諸活動と生活指導 (小) | 小坂江美 | 姫路 |
| 11B | 自治的諸活動と生活指導 (中) | 伊勢幸弘 | 佐用 |
| 12 | 幼年期の教育と保育問題 | 棚橋敦子 | 西宮 |
| 13 | 人権教育 | 會澤寿之 | 西宮 |
| 14 | 障害児教育 | 比嘉美智子・古武家育子 | 芦屋 |
| 15 | 国際連帯の教育 | 木場直子 | 三原 |
| 16 | 両性の自立と平等をめざす教育 | 廣瀬弥生 | 宍粟 |
| 17A | 環境・公害・食教育 (環境・公害) | 伊藤文雄 | 川西 |
| 17B | 環境・公害・食教育 (食教育) | 今西敏美 | 三田 |
| 18 | 平和教育 | 坂本研二 | 津名 |
| 19A | 情報 (学校・地域の文化活動) | 井平公章 | 宍粟 |
| 19B | 情報化社会の教育・学校図書館 | 丸山由希子 | 加小 |
| 20 | 高等教育・選抜制度と進路保障 | 中下 靖・濱田篤則 | 宝塚 |
| 21 | カリキュラムづくりと評価 | 井岡徳子 | 加小 |
| 21A | 民主的な学校づくり | 深谷弘志 | 津名 |
| 22B | P T A・地域の連携 | 吉田智美 | 揖龍 |
| 22C | 過密・過疎・へき地 | 西羅英理 | 多紀 |
| 23 | 教育条件整備の運動 | 安田 正 | 伊丹 |
| 24A | 総合学習 (ものづくり・生活・環境) | 横山桂子 | 佐用 |
| 24B | 総合学習 (人権・平和の視点から) | 細島房代 | 津名 |

第59次県教研
ひょうご教育フェスティバル
いきる つながる みちひろく
～自立と連帯・共生の学びと教育～

11月14日(土)、15日(日)の2日間、篠山市で第59次兵庫県教育研究集会「ひょうご教育フェスティバル」が開催された。教職員、退職教職員、子ども、保護者、働く仲間・地域の方々など、のべ5,100人が参加した。

新型インフルエンザの流行により、地元の小中学校では学級閉鎖が相次いでいる最中の開催となったため、13日に開催予定だった「子どもと親の劇場」劇団「子どもと親の劇場」劇団「道化座」による「スーホの白い馬」の公演と全体会のオープニングを飾る予定の



参加は、のべ750人を超えるものとなった。今次県教研集会では、メイン・テーマを「いきる つながる みちひろく」自立と連帯・共生の学びと教育」と、14年ぶりに見直

育を創造していくという私たちの強い願いと決意が込められている。全体会の来賓として、連合兵庫森本洋平会長、井戸敏三兵庫県知事、大西孝兵庫県教育長、酒井隆明篠山

市長、兵庫県PTA協議会岡部喜久男会長が出席され、それぞれから激励のあいさつをいただいた。続いて、第30回「兵庫県教職員組合文化賞」の発表と表彰がおこなわれた。(別項掲載)

22本のレポート報告があり、各分科会で熱心に討議された。この中から各分科会で選出されたレポートが、第59次日教組全国教研で報告される。(別項掲載)

また、総合教育研究財団・子ども教育支援財団との共催による「子どもの育ちを考えるシンポジウム」が、「ネットワークで子どもを育む」その実践とこれからの課題」をテーマに、I部 実践報告、II部 パネルディスカッションがおこなわれ、学校・家庭・地域社会のネットワークづくりの重要性が語られた。



第30回「兵庫県教職員組合文化賞」受賞者

兵教組は、地域・生活に根ざした教育・文化・芸術の創造・発展を願い、1980年に「兵庫県教職員組合文化賞」を創設し、これまで29回(個人111人・団体32件)の表彰をおこなってきた。

和教育部会の協力研究所員として、長年にわたり兵庫における平和教育の発展に大きく寄与する。学校や子ども・地域の現状を鋭く見詰め、平和教育のあり方の提言や指導助言をおこなってきた。今後も兵庫における平和教育の研究活動をリードされることを期待する。

東・平和と人権教育研究資料室「坂本遼文学資料館」を自宅で開設。兵庫県在日外国人教育研究協議会副会長としても活躍している。

勇壮活発に踊る。1974年フランスのニースカーニバル、1998年中国海南省建国10周年記念行事、2006年中国広東省国際観光フェスティバルなど、国内はもとより海外にも遠征。地元小中学生への伝承・後継者育成にも尽力し、地域文化の推進力となることを期待する。



村上登司文さん(京都市) 兵教組栄養職員部長として、長年にわたり「安心・安全な学校給食」の発展に大きく寄与する。兵庫教育文化研究所の食・環境教育文化研究所の食・環境教育文化研究所員として「食育」を推進。学校厚生会の「食のアドバイザー」として西播地域中心に学習部会やPTAの学習会等の講師としても活躍している。

海上傘踊保存会(新温泉町) 青年団を中心に構成。1965年頃から活動してきた。由来は江戸時代より伝わる雨乞い、長柄の絵模様傘に大小240個余りの鈴をつけ、二人一組となつて

特定非営利活動法人 篠山国際理解センター(篠山市) 1995年に丹南国際理解センターとして発足以来、地域在住の外国人及び子どもたちへの生活支援や学習支援に献身的にとりくむ。急増する外国人労働者、その家族とともに日本語理解が十分でない状況の中、生活支援、生活・文化・習慣面での支援、精神面での支援に加え、外国人との共生の視点に立った地域住民の意識改革をめざす国際理解センターの活動に期待されるところは大きい。

「子どもたちのゆたかな未来のために」

～希望と教育～

第59次兵庫県教育研究集会 記念講演より (抜粋)

玄田 有史さん (東京大学社会科学研究所教授)



参加者の笑顔が絶えない、ユーモアにあふれた玄田さんによる講演会場は満席の状態だった。(11月14日、丹南中体育館にて)

不安が募る「大丈夫？」

なぜ今は「希望」がないと言われるのか。そもそも希望とは何か、05年から東京大学の研究所の中で「希望学」を始めた。その中で「なるほど」と思えた事や考えたことを話したい。

宇多田ヒカルが「絶望の反対は、希望ではなくユーモアではないか」と言ったという噂話がある。「ユーモア」を新明解国語辞典で調べると、「社会生活(人間関係)における不要な緊迫を和らげるのに役立つ、婉曲表現によるおかしみ」とあり、いいなと思った。

近頃はよく知られているが、心が苦しくなる人は頑張り屋さんが多く、「頑張り」と言うと、もっと苦しい状況に追い込んでしまふ。もう一つ、案外心が緊迫する「大丈夫？」という言葉がある。今、若者たちは「大丈夫？」と聞かれることが多いような気がする。経済不況、少子高齢化や財政難や年金、上手な人



「勉強の意味とは？」

講演で、中学生から「勉強に何の意味があり、学校で習うことが役に立つの

「あいつをしましよ」

学校に

「聴く力」の方が大事な

「あいつをしましよ」

「あいつをしましよ」

「あいつをしましよ」

「あいつをしましよ」

「あいつをしましよ」

Hope is a wish for something to come true by action.

希望とは具体的な何かを行動によって実現する強い思い

「あいつをしましよ」

学校に

「あいつをしましよ」

教職員のための

ユース教弘保険「あゆみとはじめ」

割安な保険料で死亡・高度障害保障をご提供する、教職員の皆さまのための保険です。

特長

- 現に公立学校に勤務されている健康な方で34歳以下であればどなたでもご契約になります。
- ご加入時の年齢により、この保険の保障期間は下表の通りとなります。
- 保障期間満了時にお申し出により新教弘保険(A型)への移行*がご取扱いができます。
※医師の診査等を受けることなく加入することができます。

仕組図および給付内容

| 加入年齢 | 保障期間 |
|--------|----------------------|
| ～24歳* | 15年間(保険期間5年間・自動更新2回) |
| 25～29歳 | 10年間(保険期間5年間・自動更新1回) |
| 30～34歳 | 5年間(保険期間5年間・自動更新なし) |

※19歳までにご加入された方は、保障期間20年間(保険期間5年間・自動更新3回)となります。

●契約例(年齢・性別を問わず保険料は同額です。)
契約年齢: 24歳(男性)
集団契約特約付労働保険(標準費5年満期) 1,000万円(15年) 300万円(15年)
災害割増特約
引当金・ユース特約付加
指定介護給付特約付加
月払保険料: 1,541円
※保険料の金額はお客様の保険料率に基づいて算出しているため、今後変更されることがあります。

29歳(自動更新) 34歳(自動更新) 39歳(保障期間満了)

保障のご継続プランについて

●ユース教弘保険の保障期間満了後、ユース教弘保険(勤労保険部分)の死亡保険金の範囲内で医師の診査等を受けることなく新教弘保険(A型)に移行することができます。

新教弘保険A型

低廉な保険料で大きな保障、教職員だけが加入できる教弘保険

